

## 山を安全に登るための講演会 **山で熊に出会ったら！** 蕨市山岳連盟

2024年11月30日(土) 山を安全に登るための講演会「山で“熊”に出会ったら!」を開催いたしました。午前10時30分からの開催でしたが、早朝より会場の蕨市立中央公民館に75名の市民、県内山岳会員の皆さんが参加いただきました。

講師はメディアでもお目にかかることが多くなった、東京農工大学大学院グローバルイノベーション研究院 東京農工大学 農学部教授 小池 伸介 先生です。

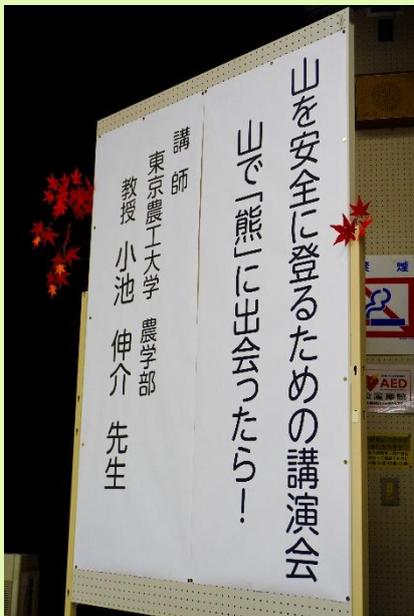


小池先生の専門は生態学です。奥多摩、足尾、日光山地などにおいてツキノワグマ(以下、クマ)の生態や森林での生き物同士の関係を研究なさっている研究者です。

最近悪いニュースばかりが目立ち、世間のクマに対する印象が悪くなっているようです。しかし、私たちが描くクマと違い、クマは人間社会とは関係なく森の中でひっそりと暮らしている動物です。

登山者がクマに襲われないためには、まずクマの生態を理解することです。

先生から最新データに基づき、クマの“真の姿”を解き明かしたお話をお聞きいたしました。



### 【身体能力は】

: 走るのは時速 50km 犬よりも良い臭覚がある 記憶能力は良い

### 【何を食べているのか】

: 雑食であるが植物質である サクラ類・草本や大木の葉・ブナ科堅果・ヤマブドウ・ミズキ・サルナシ・ドングリ・アリ・ハチ・ヤマブドウ・山菜・シカの死体など  
しかし個体によって食べ物は異なっている

### 【どの程度食べるのか】

: 秋に1年間のエネルギーの80%を摂取 夏は余り摂取せず耐え忍んで生きている

### 【冬眠するのか】

: 全ての熊が冬眠するわけではない 冬眠中は心拍数、呼吸数とも 1/5 まで低下する

## 【行動圏はどれくらい】

: 雌雄とも 200 km<sup>2</sup>の事例も存在する

では、山に登っている登山者は山の中でクマに出会ったらどうすべきでしょうか。  
そのことについて学んでみました。

### 1. まずはツキノワグマと出会わない、回避行動をすることです。

- ・登山道以外の山道(バリエーション・沢筋)を歩かない。できるだけ見通しの良い場所を歩く。
- ・やむなくカーブや藪で見通しが悪い道では事前に大きな音や声を出す。
- ・クマにこちらの存在をできるだけ教え、突然の出会いを避ける。
- ・一人での登山、単独行動をしない。
- ・夜間や夜明け、夕方の薄明り時には行動を避ける。
- ・香水や香りの強い化粧品、匂いの強いシャンプーなどはクマの興味を引き、刺激を与える恐れがあるので避ける。
- ・新しい熊の痕跡(ふんなど)がある場合はその場を避ける。
- ・雨上がりなど霧がかかっている場合、匂いが伝わりにくいので十分注意して行動する。

### 2. もしも、クマに出会ってしまったら！

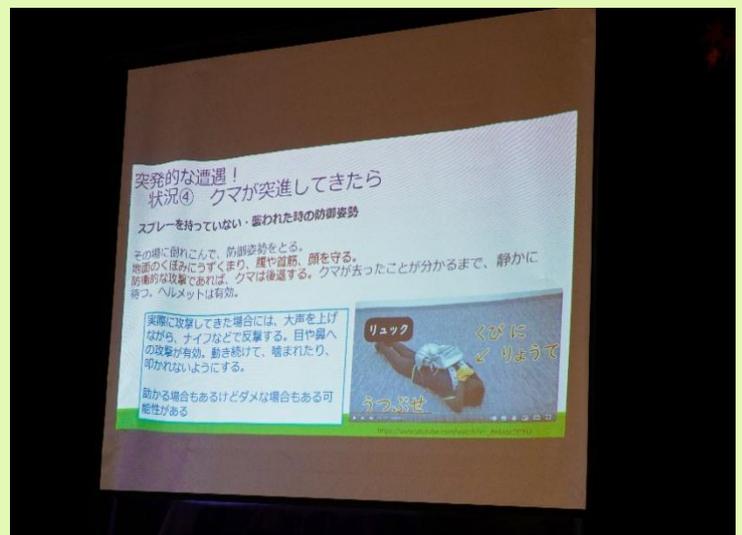
登山者がやるべきことの絶対な正解はない！ なので、やってはいけないことを覚えておく。

- ・クマを見たら絶対に騒がず静かに状況判断する。
- ・クマをパニックにさせない。
- ・背を向けて走り出さない。
- ・他の登山者がいる場合は一緒に行動する。
- ・最後は撃退スプレーを準備する。5m以内に接近したらスプレーを噴射する。

### 3. クマと突発的な遭遇！

山中で熊が突進してきたらどうする！

- ・撃退スプレーを持っていなかったとき、その場に倒れ込んで防御姿勢をとる。
- ・地面の窪みにうずくまり、腹や首筋、顔を守る。
- ・クマは防御的な攻撃の場合は後退する場合もある。
- ・クマが去ったことがわかるまで静かに待つ。  
しかし、助かる場合もあるがダメな場合もある。



主催者 蕨市山岳連盟 須賀 敬史会長 ご挨拶



左から 天野 SAMSCA 専務理事 頼高蕨市長 須賀蕨市山岳連盟会長

来賓 蕨市長 頼高 英雄様 ご挨拶



蕨市交通安全協会のご協力により 参加者の皆様に 富士山マークのリフレクター (反射板)と 安全登山啓発マスクを記念品として配布いたしました



蕨市民・埼玉県内山岳会員他75名参加いただきました